

平成29年度徳島県教育行政点検・評価委員会 議事概要

(開催要領)

- 1 開催日時 平成29年9月7日(木) 午前10時から午前11時30分まで
- 2 場 所 県庁9階 教育委員室
- 3 出席者
【委員】5名全員出席
南育弘会長, 祖川康子委員, 中川朋子委員, 原憲史委員, 三隅友子委員
【県】 美馬教育長, 勢井副教育長, 森本教育次長, 栗洲教育次長 他

(会議次第)

- 1 開 会
- 2 教育長あいさつ
- 3 委員及び事務局職員紹介
- 4 議 事
(1) 教育委員会の点検・評価(案)の説明
(2) 質疑及び意見交換
- 5 閉 会

(議事内容)

(委員)

ただいま、事務局から説明がありました。事務局からの説明に対する御質問でも結構ですし、資料の各項目に対する御意見、御提言なども含めて、御発言いただければと思います。

(委員)

最近、エシカル消費というのがキーワードになっていますが、ゆこうドロップやゆこうマーマレードなど生産や販売、消費まで考えて商品をイメージしたり、マーケティングなども行って、誰に売るかなど、深いところまで考えて活動が図られているなど感じました。私も食品加工会社のほうに勤務しております、チョコレート一つにしても、オーガニックココアやフェアトレードチョコレートを使うようにしています。おからをケーキに使ったり、奄美大島のきび砂糖を使うとか、素材については費用対効果と言いますか、価格の問題はありますが、エシカル消費というキーワードが出てきますと、今まで口にしていたものを考えながら消費していったり、徳島のものを選んだり、地産地消や生産者の顔が見える消費者が増えていくのかなと感じました。

次に、グローバル化についてですが、今年も阿波踊りに参加しました。外国人の方がとても増えているなど感じるのですが、その時にも高校生がガイドとして案内している姿を目にしました。2020年の東京オリンピックを見据えて、英語を使って日本のことを紹介したり、徳島のことを紹介したりと、徳島にできることとして、このような取組が充実

していけばよいなと感じます。また、徳島を紹介するだけでなく、四国や中四国、徳島から和歌山、九州など総合的な紹介ができるとういのではないかと思います。

スポーツについてですが、徳島は人口規模から言っても少ないのがスポーツ施設であると思います。とくに筋力トレーニングのジムなどはとても少ない。徳島市内には数カ所ありますが、木頭のあたりは皆無です。生涯学習としてのヨガや卓球などの施設はありますが、工夫次第でそうした環境を向上させることができるのではないかと考えています。総合型スポーツクラブを拠点として、中古の機材を有効活用するなど、予算をかけずに環境をよくすることは可能ではないか。基礎体力を身に付けることが大切だと思いますので、地域住民の一人として関わっていかねばいけないと思っています。

都道府県別のスポーツ施設を調べてみたのですが、平成8年から20年の文科省のデータにはなりますが、相撲場や水泳場、キャンプ場などのスポーツ施設は鳥取に次いで少ない。トレーニング施設も鳥取に次いで少ない。東京は466で徳島は40しかない。人口規模に比べても少ないと思います。基礎体力づくりにはスポーツ施設の充実も大切だと思います。一方で、全国4位の施設数を誇るのがゲートボール場だそうで、東京には86しかないが徳島には115あるそうです。北海道、長野、新潟に次いで4番目だそうです。これを活用してペタンクやスポーツポロなど若い人にも人気があるスポーツに利用するなど、今ある施設の有効的な活用が必要になってくると思います。

(委員)

ただいま、消費をめぐる問題、グローバル化への対応などのお話が出ましたが、事務局のほうからスポーツ施設の充実やグローバル化、インバウンドへの対応などについてどのように取り組まれているのか御説明いただければと思います。スポーツ施設についてはいかがでしょうか。

(事務局)

スポーツ施設につきましては、教育委員会だけではなかなか対応できない部分があります。知事部局に県民スポーツ課がございますが、本日、このような意見があったことをお伝えし、連携しながら対応してまいりたいと思います。

(事務局)

さきほど、ジュニア観光ガイドについて御意見をいただきました。2020年の東京オリパラを見据えまして、来県する外国人観光客、世界に向けて徳島の魅力を英語で発信できる人材を育成しております。昨年度から始まった事業ですが、年間8回の計画がありまして、昨年度ですとクルーズ客船の案内ですとか、観光先進地域である京都での研修では大学生ボランティアとの交流などを通して、ガイドとしてのスキルアップを図りました。今年度も実施する予定です。また、今年度、三好市でラフティングの世界大会が行われますので、三好市に出向いてガイドをする予定でございます。

(事務局)

さきほど、徳島プラスアルファの観光ガイドをというお話をいただきましたが、今後、ガイドの養成において検討してまいりたいと思います。

(委員)

昨今、世界情勢が大きく変化していくなか、グローバル教育の視点はとても大切だと思います。日本人全体が海外に目を向けている時代にあつて、徳島も例に漏れずというところだと思います。大切なのは、その意味だと思います。今、世界はどのような動きなのか、社会情勢を知り、伝えていく必要があると思います。その社会情勢を現場の教員がどのように捉えているのか非常に興味があります。上から降りてきて、こうだからこうやりましようというのではなかなか意味は伝わらないと思います。現場の先生は必死で毎日の業務にあたられていて、社会に目を向ける余裕がないように思います。

スポーツも同様だと思いますが、国体何位という目標を実現していく上でも、なぜそのようにするのか、メンタル面の教育、意欲の部分を含めてどのように動機付けしていくのかが大切で、ただ練習するだけではなく、そのような部分が充実してこないと結果は付いてこないのではないかと、それはグローバル教育にも繋がってくると思います。

多くの施策に取り組んでおられるのは素晴らしいことですが、社会人の目から見ますと、例えば、インターンシップの質にしても、ただ件数を増やすだけでなく、何を学んでもらうのか、社会人の大変さを学ばせたいのか、社会に出る楽しさを学ばせたいのか、その目的をはっきりさせる必要があると思います。社会に出て活躍するための学校教育だと思いますので数値目標の次には、質の向上が求められてくると思います。施策の目標が現場の教員や生徒にどれだけ伝わっているのか。それらを見据えた上で、今何をやるべきかということを考えていかなければいけないと思います。このようなことについて、どのように取り組まれているのかをお聞きしたい。

(事務局)

私のほうからお答えさせていただきます。大事なところだと思いますが、教員が世界や社会の情勢をどれだけ把握しているのか、アンテナを高くして、どこまで知った上で、教育に生かしているのか、厳しいところを御指摘いただいたと思います。

今、教育の転換期で、第4次産業革命といわれるように、科学技術の進歩が社会を変えている。経済産業省等でも若手職員に、これからの教育に何が必要かというものを出示していますけれども、そういったものも含めまして、これから20年後を生きる子供たちにはどういった力が必要なのか、これを常に考えながら教育を行って欲しい。教員の研修も多すぎると多忙化につながると言われますが、非常に大切なもので、とくに年次研修やスポーツの指導者研修、管理職研修などで繰り返し話をしながら、子供たちにどのように還元できるのか、様々な専門分野の方々から話をいただいたり、自らアンテナを高くして、見聞を広めるためにはどうすればよいのか、これは特に初任者研修のなかで話をしてみたい。20年後、25年後の世界と言いますと、今ある仕事の4割がなくなる、6割がなくなるという人もいますが、AIが出てきた中で、人間が必要な力とは何かを考えながら教育を行うことが大切だと思います。御提案いただいた点を今後、どのように研修に組み込

んでいくのかを考えさせていただきたい。

インターンシップにつきましては、とくに専門高校の場合は時間を増やしながら取り組んでおります。このときに教員もいっしょに学ばさせていただく。就職や進学、とりわけ就職にあたっては、教員が徳島の企業はどうかを、もっと知っていかなければいけない。教員も企業の方々に教えていただくという姿勢が大事だと思います。どこまで浸透しているのか、はっきりとしたバロメーターはないわけですが、折々に現場の先生方に意見を聞きながら、確かめていく必要があるのかなと思います。

(委員)

所属は高P連ですが、高校生を持つ一保護者という立場からも発言させていただきたいと思います。安全・安心な学校づくりということで、子供たちの命を守るという観点からPTA活動においては、関係団体と連携し、三不運動を提唱してまいりました。これが浸透してきたということで、現在は地域や学校の実情に合わせて自転車、バイク、歩行者のマナーアップということで形を変えてきております。学校現場では登下校等で命に関わる問題、被害者にならない、加害者にならないように子供たちを守るべく対策を強化しておるところですが、具体性に欠けているところも否めません。何か、具体的な提案がありましたらお願いしたいと思います。

(事務局)

自転車等のマナーアップというお話ですが、現在、全ての高等学校と6つの特別支援学校におきまして交通マナーアップクラブが結成されております。上からつまり学校からの指導というのではなく、子供のほうからの自主的な動きを重視した取組を進めていただいているところでございます。社会人になっても交通ルールを守れるということは、子供の頃から強制されるものではなく、主体的に意識を高めていくことが大切かと思っておりますので、このような活動を継続してまいりたいと考えております。

(委員)

高校生はよく自転車に乗りますが、先日、マナーアップクラブの会に参加したのですが、モニターでヘルメットをかぶるという報告が何校かありました。ヘルメットをかぶるということは自分の命を守るということはもちろんですが、例えば自転車事故の場合、一方がかぶっていて、一方がかぶっていなかったとして、怪我をした場合に裁判事案にもなり、多額の賠償命令が出た事例もあります。そうなった場合、保護者もつらい思いをしますので、ヘルメットの着用についてはどのように考えておられるのか、お聞きしたい。

(事務局)

ヘルメットの着用につきまして、平成28年4月1日に「自転車の安全で適正な利用に関する条例」が施行されたということで、県教育委員会といたしましてもモニターという形で576名に対してヘルメットを提供し、着用してもらうという事業を実施いたしました。本年度につきましては480名に対して引き続きモニターを継続する予定です。この条例の趣旨ですが、ヘルメットの着用につきましては努力義務ではありますが、高校生に

限らず社会全体で進めていくということと、点検整備や保険の加入など保障についても言及されておりますが、いずれも努力義務となっております。今後とも条例の趣旨に則り、関係機関と連携しながら、生徒が主体的に着用していく施策を進めてまいりたいと考えております。

(事務局)

生徒指導という面でPTAにはたいへんお世話になっております。全校生徒を対象として交通安全教室や自転車点検等を実施して、交通安全に対する意識を高めております。中学校では学活、高校ではホームルーム活動等で交通安全に対する指導を徹底するというところでございます。御指摘のヘルメットにつきましては非着用等、さらに携帯電話を使用しながらの運転、傘さし、無灯火、左側通行の徹底など警察から警告も受けておりますが、学校の生徒指導担当者会を通じて指導をしております。警告件数そのものは減ってきておりますが、命に関わることでもございますので、さらに徹底してまいりたいと思います。高校生の場合、自転車の遠距離通学も多く、時間を急ぐあまりスピードを出しすぎるなど危険がともなうことも多いですので、ヘルメットにつきましても再度、周知をしてまいりたいと考えております。

(委員)

主体的にというお話ですが、子供たちに聞くとヘルメットをかぶるのは格好悪いという話を多々、聞きます。それを取り巻く大人も見過ごしていることが多い。周りの大人たちがヘルメットをかぶることは大切であるということを示していければ、子供たちも変わってくるのではないかと思います。いかがでしょうか。

(事務局)

努力義務はしなくてもよいということではなく、しっかりと努力しなくてはいけない。できれば子供も大人も皆が自転車に乗るときはヘルメットをかぶる、そのためにどうすればよいのか。われわれも県警の方とよく話をしますが、格好いいヘルメットの図案はないのか、とくに女子がなかなかかぶらないので、女子がかぶれるような図案はないのかなど。また、大人もかぶってない、やはり社会全体として取り組む問題なのかなと思います。一方で、中学生のようにかぶらないと指導するというのは簡単だが、それでいいのか。卒業したらかぶらなくなるのでは意味がないので、やはり主体性も大事だと思います。口うるさく言ってないとダメで特効薬はないのですが、今後の課題として関係機関と連携しながら何ができるか検討したいと思います。

(委員)

8月末からドイツのニーダーザクセン州に行く機会があつて、現地の方も徳島県とニーダーザクセン州との関係を生かして、交流を深めたいというお話をされておりました。高校生の留学者数が減ったということですが、ヨーロッパでのテロ等もありましたので、安全を見極めていくということで、逆に良いことだと思います。単に数を増やすだけではなく、状況を見ながら徐々に増やすというのであれば、徳島県はよく考えているということ

で悪いことではない。大学でも文科省から数を増やすよう言われますけども、そうではなくて、どのような目的があって、どのような教育効果があるのかを考えることが大切ではないかと思います。先程来、話がありますように、外国に行く、視野を広めるということは、何のために行くのか。そこに行って帰って来なくなるのではなく、帰って来て徳島や日本を良くしていく。どう良くしていくかと言うと、いろんな文化や価値を持った人たちが同じところでがんばって暮らしていくこと。グローバル人材の目標は文化共生のまちづくりだと思いますので、中にはわからないことを、行った人が行かなかった人に伝えて、地域を作っていくということが一つの大きな目的だと思います。行ってきて、こういうことが期待されているということを示すことが必要です。グローバル化は英語だけではなく、言語に付随した文化や宗教を理解することも含めて対応することが必要になると思います。大学で小中高といろいろな連携をしていくなかで、それぞれのプログラムはいいのですが、発達段階に合わせたところだけを考えていて、グローバル化の目標が共有されていない部分があるような気がします。経験のない教員が留学生の対応について心配されていることも多いのですが、知らない子とともに学んでいく姿勢が必要で、外国に行ったことのない教員が外国に行く生徒を育てることもありだと思います。そういう部分で教員の資質が大切で、マイナスの見方を変える教員研修が必要なのかなと思います。それは日本語講師の派遣にもつながる話で、自分のクラスにそういう子がいるから困ったなどマイナスに捉えるのではなく、そういう子たちと共に学んでいくことで、学校や地域社会に溶け込んでいく姿を見守る姿勢が大切だと思います。徳島県はまだそういう仕組みが少ないので、これからそういった子供と教員がうまく組み合わせられたシステムを作っていくことが必要だと思います。他にもあわっ子文化大使の取組やジュニア観光ガイドの取組もすばらしいので、続けていくとともに、言語教育とうまく組み合わせて、英語以前に何を伝えるのか、徳島県の魅力って何なのか、自分が誇りに思う徳島って何なのかをしっかりと学習することもグローバルの基礎になる部分だと思います。

(事務局)

グローバルマインドの育成について御意見をいただきました。留学者数が減ったことにつきましては、昨年末にベルリンでテロが発生いたしまして、その影響で年明けに出発予定だった学校が中止とした経緯があります。地域を選ぶ、安全性を確保するという点について、連絡体制など体制を整えることは必要だと思います。それに気を付けながらも多文化共生、国際的視野の涵養に努めていきたいと思っています。

(委員)

グローバル化、スポーツ振興、安全安心の問題などについてお話が出ましたけれども、数値目標が独り歩きすることがあると思います。例えばスポーツですと順位が出てきて、それが低いと、すべてがいけないことのように感じる場合があります。

スポーツの振興につきましては、順位だけでなく県内の実業団と中高生がともに活動する機会を設けるなど、県内の資源を有効に活用して、レベル向上を図っていく必要があると思います。数値目標だけではない、施策の工夫をお願いしたいと思います。

他に何か御意見がございませんか。

(委員)

体力向上やエシカル消費にもつながると思うのですが、学校給食における地場産物の活用率が一旦下がったのですが、また上昇しているのがすばらしいと思いました。取組状況にありますように、地場産物を活用するためのレシピ・調理技術マニュアルを作成し、全学校給食調理場に配布したというのは、新しい取組だなと感じました。また、課題として県産の肉や魚は価格の問題で活用が難しかったとありますが、工夫して活用ができるようになればと思いました。

(事務局)

県内に栄養教諭が配置されておりますが、栄養教諭が中心となって徳島県の自然の恵みや生産者への感謝の気持ちを育てる意味で地場産物の積極的な活用を進めております。今回の調査は文科省の調査で悉皆調査ではなく、抽出調査となっておりますので多少の数値の変動はございますが、常に全国平均よりは10ポイント以上高い数値を示しております。今後も推進してまいりたいと考えておりますが、数の確保や流通経路の問題、予算が高くなって購入が難しくなるという問題がございますので、改善を図りながら、県産物の活用は今後も進めてまいりたいと考えております。

(委員)

スポーツについてですが、アスリートを育成するというのは理解できるのですが、それ以外の子供たちの体力向上にはどのように取り組んでいるのかについてお聞かせいただきたいと思えます。

(事務局)

競技力の向上に加え、スポーツの苦手な子供に対しての指導といたしましては、はつらつサポート事業がございまして、例えばまったく泳げない子供が指導者が来るということで、ちょっとやってみようかと意欲的になったり子供が変わってくるという事例もございます。競技力の向上とスポーツの苦手な子供に対して、スポーツを好きにさせるという両面から事業を展開しております。子供たちの体力は向上しておりますが、全国的に見ますと、まだまだ改善すべき点も多いですので、事業を通して一つ一つ取り組んでまいりたいと考えております。

(委員)

運動習慣のない親御さんもおいでです。高校時代までに運動に取り組んでいないと、結婚をして家庭を持ったときに、子供たちに運動することのすばらしさを伝えられないということも出てくると思えます。競技力向上のためには、時間はかかりますが、そういう部分から始めていかないと、おそらく自前での競技力向上は難しいように思います。

(事務局)

小さい頃から運動に興味を持たせるために、学校では、とくに小学校では運動をする機会を提供したり、継続するような支援も行っております。また、各学校の課題、例えば投げの力が弱いなど、各学校が持つ課題を一つ一つ取り上げて、学校ぐるみで体力向上と競技力向上に結びつける取組を進めておりますので、小中高取り組みの流れのなかで子供たちを運動好きにしていけるような取組を進めてまいります。

(委員)

たいへん多くの施策があり、多くの施策で成果をあげておられますが、一つ二つ欠けたものがあると、どうしてもそちらに目が向きますので、その改善に力を入れていただきたいと思います。とくに、お話が出ましたグローバル化につきましては、小学校の英語の教科化については、教えられる先生がどれほど確保できているのだろうかなど、実際に小学校へ子供さんを行かせる親御さんは不安をお持ちだろうと思います。保護者の方は学校教育に対して様々な要望をお持ちで、その一つ一つに答えていくことが、魅力ある徳島の教育の実現につながると思いますので、是非、よろしくお願ひしたいと思います。

また、教員の多忙化が進んでいると言われますが、それに対してどのように対応していくのか。そのようななか、研修の時間をどのように確保していくのかということも検討いただき、先生方がもう少し余裕を持って子供たちの指導ができるような体制づくりをお願ひしたいと思います。

(委員)

先週、全国高P連の静岡大会に参加してまいりました。徳島県からも多くの方が参加されておりました。その際にもお聞きした意見でもあるのですが、学校設備に関して、現在、民活で設置されているエアコンについて、今後、どのようなになるのかということでございました。

(事務局)

空調設備につきましては、県立学校では民活としてPTAや同窓会に設置をしております。特別教室などは県で整備しておりますが、普通教室につきましては予算上、たちまち県で改善、整備するのは難しい状況です。これまで各校で整備していただいたものの更新時期がそろそろ出てきている状況ですので、これからの検討事項ですが、この場でこうするとは言えない状況でございます。

(委員)

PTAが電気代の支払いを行っているわけですが、他校の方にもうかがいますと、子供たちの減少で、会費を上げないといけない学校も出てきております。実際に、私の高校においても昨年度、上げさせていただきました。そのようななかで、負担が増えていきますと親御さんにとっても大変ですので、早急な対策を練っていただきたいという御意見が多々、ございましたので、明確でなくてもよいですが、方向性だけでもお聞かせいただきたい。

(事務局)

方向性につきましても難しい面がありますが、電気代につきましては今後もご負担いただくようになると思います。いちばん金額が大きいのが設置費用、更新や撤去にかかる費用ですので、それにつきまして何らかの方向性を示すことができるよう、今後、検討してまいりたいと思います。

(委員)

ありがとうございました。本日は、皆様から多数の御意見をいただきました。事務局におかれましては今後の教育行政にできる限り反映させていただければと思います。